

協会に事務局を置く団体

神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃
集団検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越
地方会実施機関部会において各県単位に「協議の場」を設
置する申し合せにより発足し、32年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法（昭和57年度～平成
19年度）および健康増進法（平成20年度～）に基づく胃が
んの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、
行政、医師会をはじめとする関係機関との連係協調を図
り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行
い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足
当初より事務局を引き受けている。

1. 協議会の開催

- (1) 第78回協議会 平成26年7月8日（火）
- (2) 第79回協議会 平成27年2月20日（金）

2. 幹事会の開催

- (1) 第97回幹事会 平成26年6月20日（金）
- (2) 第98回幹事会 平成26年12月4日（木）

3. 研修会

日 時：平成27年2月20日（金）
演 題：「胃がん検診の現状を見据えた、今後のあるべき姿」
講 師：K K R 高松病院 健康医学センター長
安田 貢先生

4. 技術部会

- (1) 第1回 平成26年5月14日（水）
- (2) 第2回 平成26年8月20日（水）
- (3) 第3回 平成26年11月19日（水）
- (4) 第4回 平成27年2月18日（水）

5. 講習会（神奈川県がん検診担当医師・技師講習会）

日 時：平成26年8月5日（火）
主 催：神奈川県 ＊共催事業

神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会名簿

	会 長	今村 清子
	副 会 長	小林 理
横浜市立市民病院がん検診センター	検診担当部長	石山 暁
川崎市立井田病院がんセンター		佐藤 康明
(公財)逗葉地域医療センター	施 設 長	河村 攻
(医)松英会	理 事 長	寺門 節雄
(財)京浜保健衛生協会	理 事 長	矢作 淳
(医)倉田会 メディカルサポートクリニック	院 長	宗像 覚
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	センター長	中安 邦夫
(財)神奈川県労働衛生福祉協会	会 長	西平 浩一
(公財)神奈川県結核予防会	専務理事	浜辺 浩章
(公財)神奈川県予防医学協会	代表理事	土屋 尚
厚木市立病院	病 院 長	山本 裕康
(医)社団相和会産業健診事業部	理 事 長	土屋 敦
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理 事 長	石井 敏和
相談機関		
日本消化器がん検診学会		今村 清子
神奈川県保健福祉局保健医療部がん対策課	課 長	佐々木つぐ巳
神奈川県医師会	理 事	石井 出
神奈川県医師会	理 事	亀谷雄一郎
		平成27年6月1日現在 (事務局 新保 文樹)

神奈川消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、消化器内視鏡技師、その仕事に携わる人々
を対象に、お互いの知識・技術の向上をめざし日常業務の
質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、松島病院大腸肛門病センター 副院長 野澤
博先生に世話人をお願いし下記の通り行われた。

第34回神奈川消化器内視鏡技師研究会

日 時 平成26年4月27日（日）
会 場 (財)横浜市教育会館
世 話 人 松島病院大腸肛門病センター 副院長
野澤 博先生
技師世話人 鈴木 瑞穂

内 容
消化器内視鏡機器取り扱い講習会
一般演題 4題
特別講演 『不安と身体内部状態への感受性』
パネルディスカッション
『内視鏡機器管理への取り組み』

入 場 者 496名

「特別講演」は、～過敏性腸症候群とストレスの関係～の
研究結果を臨床心理士の先生より聞くことができた。

「パネルディスカッション」は、スコープの管理方法や故
障削減への取り組みなど、今年度も日常業務の参考になる、
身近な情報を得ることができる充実した研究会であった。

顧 問（五十音順）

青木 誠孝	青木医院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
西元時克禮	北里大学病院名誉教授
勝又 伴榮	北里大学病院
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院
遠藤 豊	昭和大学藤が丘病院
峯 徹哉	東海大学病院
山川 達郎	帝京大学溝口病院
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学病院
安田 宏	聖マリアンナ医科大学病院
生沢 啓芳	あいクリニック
南 康平	丹羽病院

役 員

青地 広美	横浜市立大学医学部附属市民総合医療センター
石渡 美和	横須賀共済病院
荻野 和弘	東海大学病院
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
鈴木 瑞穂	松島クリニック
瀬戸 道雄	青木医院
志賀 拓也	日本鋼管病院
谷合 幸乃	横浜市こども青年局
高木ちなつ	藤沢湘南台病院
富田 美穂	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
納所けい子	神奈川県予防医学協会
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
平井 弘子	東名厚木病院
藤田 賢一	帝京大学溝口病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
本多 好恵	小田原市立病院
保坂 深雪	
松永 和也	東海大学病院
三浦 美保	北里大学東病院
松永 和也	東海大学病院
山本 松男	南大和病院
渡辺 朋子	菊名記念病院

(事務局 納所けい子)

子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診検討会（以下、検討会）は、精度管理向上を目的とし昭和46年度に開会した。

検診車による子宮がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から委託事業として当協会が配車し、細胞診断と結果報告を担当している。

検討会は、検診に協力いただいている県内の北里大学・東海大学・横浜市立大学・聖マリアンナ医科大学・日本医科大学武蔵小杉病院・相模野病院の産婦人科の医師及び県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師のグループで車検診のデータの検証と、発見症例の再検鏡や再検証・検討を実施し、精度管理の維持向上に役立てると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施・検討している。

また、この検討会で報告・検討された内容については、神奈川県産科婦人科医会の代表医師に対しても報告している。

（事務局 稲葉 稔明）

神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されています。昭和53年度以降は県が実施主体となっており、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施いたしました。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に加わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長福田護（聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が遂行されています。

同連絡会は「神奈川県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局：神奈川県保健福祉局）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るために設置・運営されています。

また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請しております。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めています。

2、会員（敬称略：順不同・平成26年8月1日現在）

会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック
院長 福田 護

〈医療機関名〉

横浜市立大学医学部一般外科	利野 靖
昭和大学藤が丘病院	松宮 彰彦
横浜南共済病院	松川 博史
聖マリアンナ医科大学病院	津川浩一郎
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
平塚共済病院	谷 和行
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
秦野赤十字病院	蓮尾 公篤
東海大学病院	徳田 裕
東海大学大磯病院	島田 英雄
伊勢原協同病院	飯尾 宏
平塚市民病院	金井 歳男
海老名総合病院	内山喜一郎
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
湘南記念病院	土井 卓子
東名厚木病院	日野 浩司

（事務局 稲葉 稔明）

神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし活動している。早期乳がんを発見をするため、画像診断力や精度管理の向上に役立つ知識や医療現場の動向などの情報提供を行なっている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣
(川崎市立多摩病院)

◎平成26年度の活動状況

《第50回研究会・第27回超音波研究会》

開催日時：平成26年7月19日(土) 13:30~17:00

会場：情報文化センター 6F 情文ホール

1. 「神奈川県下におけるマンモグラフィシステムの現状 神奈川乳房画像研究会 施設アンケート調査報告」

神奈川乳房画像研究会世話人 小川衣美先生

2. 「新たなステージに入ったわが国の乳がん検診」

聖マリアンナ医科大学附属研究所

B&Iセンター先端医療センター附属クリニック

福田 護先生

3. 「乳癌の診断と治療：過去・現在・そして未来へ」

医療法人湘和会 湘南記念病院

かまくら乳がんセンター センター長 土井卓子先生

参加者：74名

《第51回研究会・第28回超音波研究会》

開催日時：平成26年11月15日(土) 14:00~18:00

会場：神奈川県警友会けいゆう病院 13階大会議室

1. 「横浜市MMG 2次判定会モニター読影 導入について」

(株)ネットカムシステムズ メディカル事業部

岡田晋一先生

2. 「乳房トモシンセシスの臨床経験について」

独立行政法人国立病院機構 高崎医療総合センター

放射線診断科 藤田克也先生

3. 「乳癌検診におけるMMGとUSの総合判定」

医療法人慶友会 守谷慶友病院 鶴岡雅彦先生

4. 「臨床画像評価」

神奈川乳房画像研究会 世話人

参加者：55名

《神奈川県医師会主催マンモグラフィ撮影技術講習会》

開催日時：平成27年3月28日・29日

会場：横浜市立市民病院がん検診センター

参加者：45名

横浜市乳癌検診二次読影会 毎週3回

世話人会開催

H26年4月28日 19:00~20:00

6月3日 19:00~21:00

7月1日 19:00~20:30

10月3日 19:00~21:00

H27年1月19日 19:00~20:00

3月16日 19:00~21:00 計6回

(事務局 見本喜久子 高橋秋恵)

ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、認定NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取り組み9年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

各団体との連携による主な活動としては、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

認定NPO法人乳房健康研究会では、一昨年より乳がんの受診率向上のための「ピンクリボンアドバイザー制度」を立ち上げ、認定試験を実施している。事務局としても今後の啓発活動に活かすために放射線技師等を含む7名が初級を取得した。

また横浜市水道局では、ピンクリボンかながわコラボによる「ピンクリボン缶」を昨年以上の大きさと備蓄年数を拡大して、災害時の飲料水7年保存500ml「横浜水缶」が作製された。

更に、神奈川県内広域水道企業団でも5年備蓄350mlの「やまなみ五湖のブレンド水」とのコラボで「ピンクリボン缶」が作製された。これにより災害に備え、健康にも備える。備えることの大切さを多くの方々に伝えた。

平成26年度は、県内市町村や企業等のイベント、講習会、研修会へ延べ40団体51日間、協力参加した。

本会としての主活動は、9月23日に、神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携したイベントを横浜公園、日本大通を中心に行い、更に、9月26日~28日には神奈川県庁、開港記念会館、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネル等8ヶ所でピンク色のライトアップを行った。

役員

1. 代表 土井 卓子
(湘南記念病院 かまくら乳がんセンター長)
2. アドバイザー 青野 智子
為行 勲
3. 監事 2名 吉泉 英紀 (横浜市政策局)
高木富美子 (乳房健康研究会)
4. 事務局長 野口 正枝 (神奈川県予防医学協会)
事務局員 7名

ボランティア登録90名

(協会職員・協会OB・外部応援者等)

(事務局 野口 正枝)

神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成26年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

平成26年度活動状況

第1回協議会（平成26年9月3日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・平成26年度労働衛生行政のあらまし
 - ・第65回全国労働衛生週間（10月1日～7日）について〔準備期間：9月1日～30日〕
 - ・労働安全衛生法が改正されます
～平成26年中から平成28年6月までの間に順次施行～
2. 講演

テーマ：「法改正を見据えたメンタルヘルス対策」

講師：富士ゼロックス㈱健康推進センター統括産業医 丹野優次 先生

メンタルヘルス対策を企業が進める必要性についての歴史的検証として、労働安全衛生法の改正や、電通事件などの具体的な事例、事業所における労働者の心の健康づくりのための指針、労働者の心の健康の保持増進のための指針などについての解説を頂いた。また、平成27年12月までに施行が予定されているストレスチェックについて、現在までの内容と企業が行わなければならない体制づくりや、外部専門機関との連携の必要性などについてのご説明を頂いた。
3. 情報交換
 - ・ストレスチェックに関する取り組み状況
 - ・胃がんリスク検診（ABC検診）に関する実施状況

第2回協議会（平成27年3月9日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
 - ・転倒事故を減らしましょう！
 - ・ストレスチェック制度施行に向けた取組みと今後の予定
2. 講演

テーマ：「健康保険組合の現状と今後」

～データヘルス計画と企業外健康管理機関の役割～

講師：健康保険組合神奈川連合会
会長 村上顕郎 様

健保組合の現状として、医療費、高齢者医療への拠出金、財政状況、保健事業費の現状、健保組合を取り巻く環境等についての解説を頂いた。また、「日本再興戦略」等に沿って、平成26年度中に策定・公表し、その後少なくとも年1回の評価・見直しを求められ、事業実施期間が3年間となるデータヘルス計画の概要、策定基準、具体的な事例、課題について解説頂き、最後に企業外健康管理機関に望むことについてのお話を頂いた。
3. 情報交換
 - ・ストレスチェックに関する取り組み状況
 - ・経済状況に伴う現状

機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲（公財）神奈川県予防医学協会
- （一財）神奈川県労働衛生福祉協会
- （一財）京浜保健衛生協会
- （公財）結核予防会 神奈川県支部
- （一財）全日本労働福祉協会
- （一財）日本予防医学協会 東日本統括センター
- （一財）労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院 健康管理センター
- （公財）労働科学研究所
- （医）社団 日健会 日健クリニック
- （医）社団 相和会 産業健診センター
- （一社）衛生文化協会 城西病院
- （公財）逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会
- （医）社団 同友会

※平成27年3月31日現在

（事務局 雨宮 徹）

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している中央労働災害防止協会認定（名簿登載機関）の健康保持増進サービス機関で組織されている。

その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

近年の高年齢労働者の増加、急速な技術革新の進展等の社会経済情勢の変化、労働者の就業意識や働き方の変化、さらには業務の質的变化等に伴い、定期健康診断の有所見率が増加傾向にあるとともに、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が高い水準で推移している。

THPでは、個人の生活習慣を見直し、若い頃から継続的で計画的な健康づくりをすすめることで、働く人がより健康になることを目標にしている。

THPをすすめる場合、研修を修了した産業医が健康測定をおこない、その結果にもとづき、運動指導、保健指導、メンタルヘルスカ、栄養指導等をTHPスタッフの指導のもとにすすめていくが、このTHPスタッフが、事業所内にいない場合には、「労働者健康保持増進サービス機関・指導機関」に委託して実施することができる。

労働者健康保持増進サービス機関・指導機関は、これら事業者が取組むべき健康増進活動の計画立案・実践を企業外から支援する機関であり、積極的に活用をしていただきたい。

〈加入機関〉

- （一財）神奈川県労働衛生福祉協会
- （公財）神奈川県予防医学協会

平成27年4月1日現在

（事務局 北見 護）

肺疾患検討会

この会も愈々150回を超えた第一歩を踏み出した。先般、市大センター病院の呼吸器内科・金子猛教授の市大医学部の主任教授就任の祝賀会があったが、その折に医療界では呼吸器内科医が不足しているということを訴えられていた。以前にもこの会のことを述べたことがあったが、発足以来34年を経過して参加者は益々という程ではないが、世代の交代も含めて毎会盛況で有難いことである。

第151回 平成26年5月13日

横須賀共済病院 呼吸器外科 諸星隆夫先生 他
①81歳、女性。アスペルギローマにみえた扁平上皮癌の一例 ②83歳、男性。乳癌術後の左胸壁腫瘍で紡錘型肺がんの一例（紡錘型のみの成分の癌は稀） ③77歳、男性。左縦隔の腫瘍で肺大細胞神経内分泌腫瘍の一例（予後悪く10生率0%） ④77歳、男性。左後胸壁に発生した肺に浸潤したSFT（Solitary fibrous tumor）。

第152回 平成26年9月9日

横浜栄共済病院 胸部血管心臓外科 呼吸器外科 原祐郁先生 他
「診断ならびに治療に雑沓した7症例」

第153回 平成26年11月11日

横浜労災病院 呼吸器外科 前原孝光先生、橋本一輝、山本健嗣先生
「診断と治療に胸腔鏡下手術が有効だった症例」
症例1：「肺ノカルディアの一例」 症例2：「肺放線筋症の一例」 症例3：「Lymphoid interstitial pneumoniaの一例」 症例4：「炎症を考えた肺胞上皮癌の一例」 症例5：「炎症性線維化巣」 症例6：「腫大せるTestisに伴った肺肉芽腫様肺炎」

第154回 平成27年2月24日

神奈川県がんセンター 呼吸器外科 中山治彦 副院長、伊藤宏之呼吸器外科部長 他
症例1：「左全摘を回避するために上葉気管支を切離後、気管吻合を試みた一例」 症例2：「舌区を残した上葉肺癌にスリーブ切除、肺動脈形成術を行った一例」 症例3：「腕頭動脈を巻きこんでいる脂肪肉腫の一手術例」 症例4：「左肺炎部肺癌StageⅢaをCDDP2コースでⅡbとして上葉切除を行った一例」 症例5：「10年前のGGOに対して縮小手術施行。13年後に切除部に癒痕発生、S₆にも多発GGOの異時癌発生の一手術例」 症例6：「右S₈GGOにて他院にて肺底区手術、断端再発か異時癌か」 症例7：「Invasive adenocarcinoma solid predominantの手術に1ヶ月で再発に対してCDDP+PEM vs ROS1-1 臨床試験→国立がん研究センターへ」 症例8：「特発性食道破裂の一例で1年後CTにより異常陰影→扁平上皮癌の一例」

（事務局 井出 研）

日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（公社）日本作業環境測定協会会員により設立。

現在、支部の会員は、自社1、機関27、指定1、測定士38の計67会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の連携強化を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成26年度は、全国作業環境研究発表会を始めとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

会 議

（1）支部会議

- ①総会1回 ②理事会3回
③技術専門委員会6回 ④機関全体集会1回

（2）本部会議

- ①支部長会議2回

事 業

I. 技術研修会

（1）第1回技術研修会（26.6.6）

空気環境中の粒子状物質のリスク評価の現状と対策

聖マリアンナ医科大学教授 高田 礼子氏

（2）第2回技術研修会（27.3.6）

II. 最近の労働衛生行政の動向

神奈川労働局 健康課長 村上 朋子氏

III. 塗料などに使用される有機溶剤の変遷

（一社）日本塗料工業会 奴間 伸茂氏

III. 作業環境測定結果報告書（モデル様式）について

①アンケート調査結果

（公財）神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

②改正の動向

（公社）日本作業環境測定協会 米山 玲児氏

（3）第3回技術研修会（27.3.27）

事業場見学会：住友重機械株マリンエンジニアリング（株）横須賀造船所

理事・技術専門委員名簿

理 事	技術専門委員
支 部 長 小浜 文夫	佐藤 研二（住友重機械）
副支部長 梅田 忠明	高野 広正（労働衛生福祉協会）
〃 田村 弘幸	竹内猪佐夫（菱重エステート）
理 事 星 敦彦	佐藤 祐憲（オオスミ）
〃 井澤 方宏	芦田 敏文（予防医学協会）
〃	岸 康博（元日産自動車）
監 事 望月 速人	堀内 京介（山梨厚生会）
行 政 村上 朋子	金子 正雄（神奈川労働局）
	（事務局 芦田 敏文）

神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し40年目。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

I 調査研究事業

1. 調査研究

- ①学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、医師部会研究会にて養護教諭とシンポジウム形式にて意見交換を実施。

責任者 生駒 雅昭

(本会幹事・川崎市立多摩病院小児科部長)

日 程 平成27年2月28日(土)

会 場 神奈川中小企業センター14階多目的ホール

テーマ 「今学校で起きている児童生徒の健康問題」—保健室をとおしてみえるもの・わかること

参 加 教育委員会、学校医、養護教諭 41名

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦

(本会幹事・こども医療センター 腎臓内科)

日 程 平成27年2月28日(土)

会 場 神奈川中小企業センター14階多目的ホール

協議事項・各地区現状報告と検討

参 加 10地区担当 8名

II 運営委員会

責任者 新村 文男

(本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授)

日 程 平成26年5月28日(水)

会 場 神奈川県予防医学協会7階役員室

参 加 運営委員 6名

III 総会および研究会他

日 程 平成26年9月27日(土)

会 場 ワークピア横浜2階201会議室

・役員会 14:00-

・総 会 15:00-

・定例研究会 15:30-

テーマ 「症例から学ぶループス腎炎の組織診断と治療」

講 師 虎の門病院腎リウマチ膠原病科部長

乳原 善文 先生

参 加 28名

IV 医師部会研究会

日 時 平成27年2月28日(土) 15:00-

会 場 神奈川中小企業センター14階多目的ホール

講 演

- ①「腎疾患における尿中L-FABPの臨床的意義」

講 師 聖マリアンナ医科大学解剖学・腎臓高血圧内科 池森 敦子 先生

- ②「今学校で起きている児童生徒の健康問題」

—保健室をとおしてみえるもの・わかること

発表者 ①前・横浜市立間門小学校養護教諭

坂井 悦子 先生

②厚木市立荻野中学校養護教諭

角田美桜子 先生

③神奈川県立大船高等学校養護教諭

金子 里美 先生

④鎌倉学園中学・高等学校養護教諭

平松 恵子 先生

参 加 41名

V 知識普及活動

1. 「2014年度 腎(じん)36号」の発刊(1,900部)

2. ホームページを活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

- ◎ホームページでの各研究会のお知らせならびに参加申込の実施

(事務局 佐藤 光宣)

禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月に施行され、本会も条例の効果的な運用に協力するとともに、禁煙、分煙、受動喫煙防止対策に積極的な活動を展開している。

26年度活動内容

I 会議

- (1) 総 会 6月7日

- (2) 理事会 4回

II 事業

1. 講演会 6月7日

「横浜タバコ訴訟について」 高橋是良

「タバコ病を含む公害訴訟について」岡本光樹

「受動喫煙防止法制定に向けて」 松沢成文

2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナーへの協力

地域、学校・職域、医療関係への講師派遣

89回

3. かながわ卒煙塾 講師・相談員協力

4. 喫煙生徒に対する神奈川県教育委員会との連携・協力

5. 禁煙推進学生懇談会(県内医科大学生対象)

6. かながわ卒煙サポートセミナーへの協力

7. イベントへの参加

上大岡駅前「禁煙キャンペーン」等9回

8. 関連会議への協力・参加

かながわ健康プラン21推進会議等

9. スモークフリーキャラバンの会への協力

10. メーリングリスト(NL)の運営

11. ホームページの運営 等

役員(理事会)の構成(27年5月13日現在)

会 長 中山脩郎(神奈川県内科医学会名誉会長)

副会長 中沢明紀(神奈川県立循環器呼吸器病センター所長)

〳 杉本達也(神奈川県歯科医師会常務理事)

〳 高橋洋一(神奈川県薬剤師会副会長)

会計、監事、理事 41名

(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局 栗原 博)

スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守るための公共的空間における新たなルールとして、「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するため、民間と行政が相互に理解と協力のもとに対策を推進し、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

（スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です）

設立呼びかけ人

公益社団法人神奈川県医師会
一般社団法人神奈川県歯科医師会
公益社団法人神奈川県薬剤師会
公益社団法人神奈川県病院協会
公益社団法人神奈川県看護協会
神奈川県

25年度活動内容

1. 受動喫煙防止県民フォーラムへの協力
11月22日、クィーンズスクエア横浜
2. 受動喫煙防止キャンペーンへの協力
5月28日～6月3日、横浜公園

運営委員会（平成27年6月現在）

委員長 亀谷雄一郎（神奈川県医師会理事）
委員 浅川 章光（神奈川県歯科医師会副会長）
〃 大塚 孝明（神奈川県薬剤師会理事）
〃 吉田 勝明（神奈川県病院協会副会長）
〃 渡辺二治子（神奈川県看護協会常務理事）
〃 長谷川嘉春（神奈川県保健福祉局保健医療部長）
(事務局 栗原 博)

神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

1. 月例会
日時、テーマ、講師、参加人数
4月12日、がんの予防と治療、そしてがん教育、小林理（神奈川県立がんセンター名誉総長・協会がん予防医療部部長）、11人
5月31日、養護教諭に必要なフィジカルアセスメントの考え方、三村由香里（岡山大学大学院教育学研究科教授）、27人
6月14日、家族を味方につける対応法—家族背景とコミュニケーションスキルを学ぶ—、小原千郷（東京女子医科大学病院附属女性生涯健康センター・臨床心理士）、17人
7月26日、短期療法のあれこれを楽しもう、米島一郎（カウンセラー・富山県砺波市スクールカウンセラー）、16人
9月20日、ぼくら少国民と藤田嗣治、中込達夫（元小学校長、赤十字賛助奉仕団幹事）、6人
10月11日、知っておきたい思春期の女性のかたち“月経を考慮した健康管理と疾患予防”、植田 啓（ひまわりレディースクリニック院長）、20人
11月8日、子どもたちを取り巻く性とし、早乙女智子（神奈川県立汐見台病院産婦人科産科副科長）、14人
12月1日、今、（発達障害者への）支援について考える、明石洋子（社会福祉法人あおぞら共生会副理事長）、15人

- 27年
1月24日、養護教諭の達人への道「スキルラダーを使ってみよう!」、中村富美子（沼津市立大岡南小学校養護教諭）、15人
2月28日、「神奈川県学校・腎疾患管理研究会医師部会」との合同開催
シンポジウム：『いま学校で起こっている児童生徒の健康問題』—保健室をとしてみえるもの・わかること パネラー ①坂井悦子先生（前・横浜市立間門小学校養護教諭）、②角田美桜子先生（厚木市立荻野中学校養護教諭）、③金子里美先生（県立大船高校養護教諭）、④平松恵子先生（私立鎌倉学園中学高等学校養護教諭）12人

- 3月28日、施設見学会 神奈川県立生命の星・地球博物館、3人

2. 夏期講習会
日時：平成26年8月5、6、7日
テーマ：いのちを生きる子どもの成長に寄りそって
参加者数（延べ）：243人

- 5日「学校の危機管理」—子どもの体とこころの反応—、藤森和美・武蔵野大学人間科学部教授
- 6日「こころに響く防煙指導」、来馬明規・とげぬき地蔵尊高岩寺住職・医師
「教職員のメンタルヘルスのために」、江花昭一・心療内科医・神奈川大学特別教授
- 7日「ネット依存の実態と予防」、三原聡子・独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター・心理療法士
「子どもの心をまもる」、坂本 勤・詩画作家、元中学校教諭

会員状況

小学校10人、中学校9人、高校6人、大学・短大2人、その他13人、計40人

役員（順不同、敬称略、平成27年3月31日現在）

顧問	高田 和子
名誉会長	山口 京子
会長	鈴木 晴美
副会長	藤沢 恵子（横浜市立南舞岡小学校）
幹事	佐藤まゆみ（神奈川県立川崎高校）
	木村千恵子（川崎市立千代ヶ丘小学校）
	平山 京子（北鎌倉女子学園）
	菊池 幸江（川崎市立南河原中学校）
	後藤 和泉（秦野市立本町中学校）
	坂井 悦子（横浜市立藤の木小学校）
	角田美桜子（厚木市立荻野中学校）
監事	中川 優子（藤沢市立藤ヶ岡中学校）
	工平 きん（横浜市立勝田小学校）

(事務局 船崎隆文)